



志木二中だより

「勇気」 前に向かう強い心をもつ生徒

「信頼」 静かに考え他を認め励ます生徒

令和7年度 7 月号
令和7年7月1日(火)
志木市立志木第二中学校
志木市館 1-3-1
TEL:048-473-2379

人としての「心得」に返る

校長 島村 直人

昔の学校にはよく「〇〇訓」とか「生徒心得」のようなものがありました。何か堅苦しいイメージがつきまとい、現在ではあまり使わないようですが、そこには人としての基本的なあり方や行動指針が示されているような気がします。

1997年、第116回芥川賞を受賞した辻仁成氏の『海峡の光』には、函館少年刑務所で毎朝唱和されている「五訓」が書かれていたことを思い出しています。それは次のようなものでした。

- 「はい」という素直な心
- 「すみません」という反省の心
- 「おかげさま」という謙虚な心
- 「させていただきます」という奉仕の心
- 「ありがとう」という感謝の心

人間が人間らしく生きていくための、ごく当たり前の事柄が示されていると、私などは思うのですがいかがでしょうか。そして、当たり前のことがあまりにも出来ていないというのが現実ではないかと思います。子供を目の前にして教育に当たる教師や親自身、自らを振り返ることが必要であると強く感じています。

校長職3年目になり、最近特に思うことは、教職員の指導・育成の大切さです。私が全校生徒に話す事柄は、実は教師自身がかみしめてほしい内容が多いのです。よって、「心得」は、子供だけではなく、教師や親自身が自覚を持って取り組んでいただきたいことなのです。

今ここに、明治に出されたある尋常高等小学校の「教員心得」があります。全13項目のうち幾つかあげてみます ○対話的に教えよ ○少しずつ教えよ ○劣等生を愛せよ ○言葉遣いを丁寧にせよ ○自己の長所短所を知れ ○品格を保て・・・現代の教師像に照射した時、私を含め反省する点が多々あり、襟を正さなくてはいけないと思っています。

1学期も残りわずかとなり、まとめの時期となりました。この1学期間は大きな事故もなく、学校行事もスムーズに実施され、着実な成果を上げたと思っています。また、面談や教育相談等をとおして、家庭と学校の相互理解に努めておりますが、今後ともぜひ子供のよりよい成長を期して、連携・協力をお願いします。全ての生徒にとって、充実した夏季休業日となるよう、しっかりと計画・準備をして臨んでほしいと思っています。